



在札幌米国総領事館 札幌市男女共同参画センター 共同主催

地域密着型アグリビジネス —若者・女子力で地域活性— アメリカの事例から

農村では、高齢化、後継者不足などの問題が深刻化しています。農業に対する若者の関心は広まっている一方で、若者の就農そのものは進んでいません。その一因は収益の問題です。職業としての農業を成り立たせるには、経営ノウハウを身に着けることが重要です。本講演では、家族経営農家を営むロゼラ・モズビー氏を迎え、米国農務省の助成金やソーシャルメディアの活用、CSA*(Community Supported Agriculture)の導入など、アメリカ流アグリビジネスの事例と、農業と若者による地域創生についてお話いただきます。皆様と北海道農業の今後を考える機会となれば、幸いです。

日時： 2015年3月26日(木) 午後6時30分開始（開場午後6時）

**会場： 札幌エルプラザ（札幌市北区北8条西3丁目）tel. 011-728-1255
2階 環境研修室**

入場無料 要申込 英語（日英逐次通訳つき）

**申込： 札幌市男女共同参画センター事業係りへ、電話、メール、FAXでの申込。
企業名、所属、氏名、連絡先（電話番号またはメールアドレス）をお知らせください
電話 011-728-1255 FAX 011-728-1229 Mail jigyoun@danjyo.sl-plaza.jp**



講師紹介： ロゼラ・モズビー氏

アメリカ・ワシントン州で家族経営の野菜農家「モズビー・ファーム」を、夫と共同経営している。農業に従事する夫を、経営・営業面でサポート。農作物のマーケティングを担当し、収益は年々増加している。CSA (Community Supported Agriculture)*の運営、食育を通じた地域社会との交流事業、ソーシャルメディアの活用、若者の雇用を促進し、地域密着型の農業経営を行っている。

***CSA (Community Supported Agriculture):** 地域の消費者が、地域の農家から、自家消費用の農産物を、代金前払いで直接定期購入する仕組み。出荷は、地域内に限られる。生産者と地元の消費者の間に、パートナー意識が生まれ、地域経済を強くするとともに、地域の土地利用のあり方への意識や、家族農業の支援にもつながる。